

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

あゐる

VOL. 1

2019
SPRING

特集

愛知教育大学って、どんな大学？
学長が語る“今”と“これから”

■ 研究室訪問

教育ガバナンス講座 西尾圭一郎 准教授

■ 愛教大生ピックアップ!

教育学研究科 芸術教育専攻 柴田茜さん

■ 研究紹介

発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業

■ クラブ・サークル紹介

陸上競技部 / ミュージカルサークルミュリム

■ 愛教大ニュース

■ キャンパスめぐり

■ 今後のイベント予定

愛知教育大学って、どんな大学？ 学長が語る“今”と“これから”



学長 後藤 ひとみ

北海道出身。専門：養護教育学。
教育学修士、博士（医学）。
2014年より現職。

沿革

～140年を超える教員養成の歴史～

1873年（明治6年）の愛知県養成学校創立以来、140年余りの歴史を有する全国屈指の教員養成大学です。1949年（昭和24年）に愛知学芸大学となり、1966年（昭和41年）に愛知教育大学に改称し、国立大学の法人化に伴って、2004年4月に国立大学法人愛知教育大学に移行し、現在に至ります。

学部では教員養成課程に加えて、1987年に総合科学課程を設置。2000年に再編して学芸4課程を設置。2007年に改組して現代学芸課程を設置。2017年に改組して教育支援専門職養成課程を設置しました。

大学院では教育学研究科に加えて、2008年に教職大学院を設置し、2012年には静岡大学との共同で後期3年博士課程を設置しました。



大学周辺の環境

～緑豊かで花木に恵まれたキャンパス～

大学から数百メートルのところに、日本三大カキツバタ自生地である「小堤西池のカキツバタ群落」（国指定天然記念物）があり、5月には紫色の美しい花を咲かせます。これに由来して、大学のシンボルマークは「カキツバタ」の花をモチーフにして、学生・教員・事務職員の融和を3枚の花びらで表しています。

自然に恵まれた丘陵地のキャンパスは、およそ50万㎡の広さを有し、北東は刈谷市の桜の名所である洲原公園に隣接しています。構内に名鉄バスの停留所があり、知立駅、刈谷駅、日進駅と大学をつないでいて、本学学生・附属高校生の他に、井ヶ谷地区の皆さんも利用しています。



幼稚園から大学まで対応する 「教育の総合大学」

2018年5月1日現在、愛知県には51の大学(国立4大学、公立4大学、私立43大学)がありますが、幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭・特別支援学校教諭・養護教諭という、様々な教員免許状が取得できる大学は愛知教育大学のみです。

さらに取得可能な中学校や高等学校教諭の教員免許状は、国語、社会、地理歴史、公民、数学、理科、英語、音楽、美術、書道、保健体育、保健、技術、家庭、工業、情報、職業指導です。特別支援学校教諭の教員免許状は、5領域(視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱)全てが取得できます。このように多種多様な免許状を取得できる大学は東海・北陸地区で本学のみです。

大学院には、教育学研究科(修士課程、後期3年博士課程)があり、教職大学院もあります。まさに、幼稚園から大学までの各学校種に対応したプロフェッショナルな教員養成を行っている「教育の総合大学」と言えます。



教育・研究のための 施設設備と地域への貢献

広いキャンパスを近代的で機能的な教育研究の場にする一方で、「地域に開かれた、地域に貢献する大学づくり」を進めています。

2014年度以降、教育未来館、教育交流館、AUEスクエア、開放型の図書館、相談窓口のある第一人文棟、IT環境を備えたリノベーションホール、国際教育棟などの整備に取り組んでいます。

2017年11月に改修した図書館の「キッズライブラリー」では、国内外の絵本(小学校低学年以下の児童対象)を配架し、随時、個人や30名以内のグループで利用できます。また、学生たちによる「絵本の読書会」を定期的で開催します。ぜひ、ご利用下さい。



9年連続 全国一位の教員就職者数

文部科学省による2018年3月末卒業者の9月30日現在の教員就職状況では、9年連続で全国一位という実績を重ねています。日本で最も多くの教員を世の中に輩出しているということです。

このような歴史ある教員養成を主軸として、学部では、子どもたちの未来を拓くことのできる「教師の育成」と、子どもや教育を理解している「専門職の育成」を進めています。



チーム学校に貢献する 新課程の設置

2017年に新設した教育支援専門職養成課程には、心理コース(公認心理師やスクールカウンセラー等をめざす)、福祉コース(社会福祉士やスクールソーシャルワーカー等をめざす)、教育ガバナンスコース(学校事務職員や公務員等をめざす)があります。子どもや教育のことを理解した上で、その心や生活、教育行政の各方面からサポートする専門職を育てています。



愛知教育大学公式マスコットキャラクター「愛教ちゃん」「エディ」と一緒に…

研究室訪問

教育ガバナンス講座

西尾 圭一郎 准教授

(金融論・国際金融論)

研究テーマを教えてください

私は学生時代からアジアをテーマとした国際金融に関する研究を行ってきました。現在は科研費という国の研究費を頂いて、成長著しいインドの金融システムを対象とした研究に着手しています。現在の我が国におけるインド経済を対象とした研究では、農業、モノづくりITなどに焦点が当たることが多いのですが、経済活動にはお金や金融が必要です。日本でインド経済に対する注目が少しずつ高まる中、インドにおける金融への理解もモノの経済と同様に重要なことだと考えて、金融機関の経営などを研究しています。

金融教育の論文で受賞もされていますね

研究を教育に活かすこともライフワークとして取り組んでおり、金融経済教育もサブテーマとして研究・実践しています。教育にもお金はかかります。社会に出る準備として、お金の話を学ばないままであることがどれほど損をもたらすか、その意識をどうやったら身につけてもらえるか、考えています。

西尾ゼミは企業のCSR活動にも参加していますね

ゼミでは社会に出る準備の一環としてCSR(企業の社会的責任)について学び、近隣企業の社会貢献についての具体的な調査を行ったり、企業と連携して事業に取り組ませてもらいながら実社会を学んだりしています。

経済活動にはお金が必要です。

お金や金融について学ばないまま社会に出ることがどれほど損をもたらすか、その意識を身につけてほしい。



愛教大生ピックアップ!

教育学研究科 芸術教育専攻 美術科内容学領域

柴田 茜さん

「先生と同じ展覧会で展示されるのは緊張します」

改組新第5回日展 第3科(彫刻)で、初入選を果たした柴田茜(しばたあかね)さん。展覧会では、前年度特選受賞者の作品も展示されるため、指導教員である永江智尚准教授の作品と一緒に展示されました。日展は全国公募の展覧会でも、歴史、難易度、規模において国内最大級の展覧会。柴田さんは第48回日本彫刻会展覧会でも新人賞を受賞しており、続いての快挙となりました。

美術教員であったご両親の影響で美術を志した柴田さんですが、彫刻をはじめたのは本学に入学してからです。彫刻に出会って「はじめて自信をもってやっていけるものに出会えた」と話します。授業時間以外でも指導してもらえる環境も大きかったそうです。

業績が認められ、2月には大府市から平成30年度文化・スポーツ活動表彰を受賞しました。連続しての受賞ですが、「若くて頑張っているということで期待してもらっている所がありますので、喜びすぎず、実力にかえていきたいと思います」と話しています。

◀ 柴田さんの日展入選作品「無口」

奇抜さのない地味なものの中にある良さやひたむきさを表現したいと作成しました。

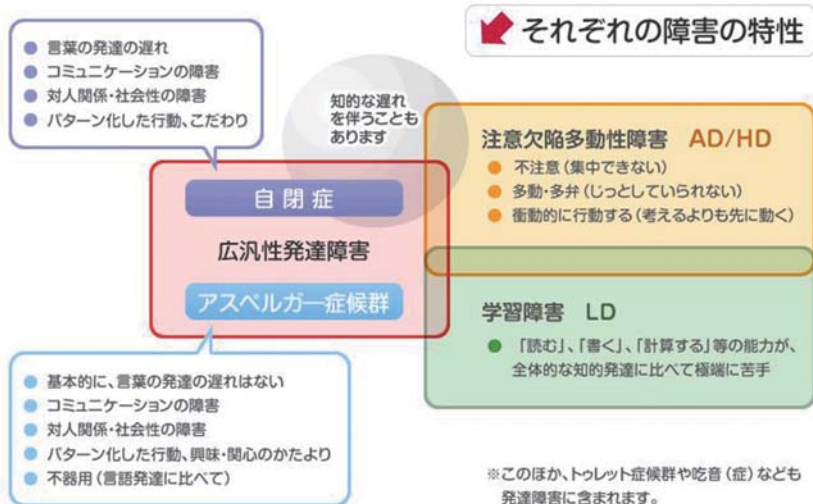


研究紹介

文部科学省委託事業 「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業」

教職キャリアセンター 教科教育学研究部門

代表 山田 篤史 教授



文部科学省の調査によると、現在、公立の小・中学校の通常学級には、学習面・行動面で著しい困難を示す児童生徒(自閉症スペクトラム、アスペルガー症候群、AD/HD、学習障害等、発達障害の可能性のある児童生徒:左図参照)が6.5%程度いると言われております。発達障害の可能性のある児童生徒の多くは、通常の学級に在籍し通常の教科指導を受けていますから、教師もそうした児童生徒がつまずくことなく学習できるよう、つまずきのポイントを意識した授業づくりをすることが求められます。また、新しい学習指導要領にも、各教科等で、障害のある児童生徒への配慮が明記されるようになりました。

文部科学省では、通常の教科指導における発達障害の可能性のある児童生徒への支援を意識した授業づくりについて調査研究をすることになり、本学では、その委託を受けて、昨年度より調査研究を開始することになりました。

昨年度は、各障害の特性(左図参照)に応じた教科毎の学習上のつまずきポイントを明らかにし、効果的な教科指導の方向性を探って、成果の一部はリーフレットにして広く学校現場に配布しました。本年度は、昨年度の研究を踏まえて、教員養成課程の学生が、各教科におけるつまずきのポイントに配慮した授業づくりができるようになるための教授法を検討していく予定です。

クラブ・サークル紹介

陸上競技部

陸上競技部は約男子50名、女子約40名からなる部活動です。大きく短距離、長距離、フィールドブロックに分かれており、各ブロックとも日々の練習に対する意識も高く、それぞれ目標を持って練習に励んでいます。



選手の中には全日本インカレで2連覇した選手がいたり、東海学生記録を保持している選手がいたりするなど、刺激を与えてくれる選手も数多くいます。練習日数が週5日と少し忙しい部活動ではありますが、4年間を通して選手としての能力だけでなく、人としても成長できるとも素晴らしい部活動です。



ミュージカルサークル ミュリム

私たち「ミュリム」は、音楽科1、2年生を中心に活動し、今年で10年目を迎えるミュージカルサークルです。12月に行う、年に1回の定期公演に向けて、歌や演技、ダンスの練習をしながら、舞台に必要な衣装、小道具、大道具を作り上げます。本番は楽器隊による生演奏です。



1つの作品を仲間とともに作り上げる楽しさや喜び、難しさを日々感じつつ、切磋琢磨し合いながら取り組んでいます。私たちがこのような活動ができるのは、地域の方々、OG、OBの先輩方など、多くの方々のご支援があるからです。感謝の気持ちを胸に、これからも精一杯活動していきたいと思っております。

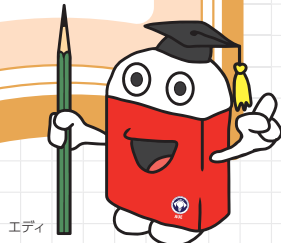


#

愛教大 ニュース NEWS



愛教ちゃん



エディ

皆さん、はじめまして!

愛教大の公式マスコットキャラクターが出来ました!

愛知教育大学の公式マスコットキャラクターが出来ました!カキツバタ色のツバメ「愛教ちゃん」と鉛筆片手に真っ赤なボディの消しゴム「エディ」です。

本学では、より広く社会から親しまれる存在となるために、昨年5月から6月に公式マスコットキャラクターの一般公募を実施。その結果、応募された作品はなんと233点。全国各地の幅広い年齢から作品をお寄せいただきました。作品は学内にて第一次審査、学内投票、最終選考委員会を実施して選考しました。当初は一体のみ採用する予定でしたが、あまりにハイレベルな作品揃いに、二体が採用となりました。

そして、今年4月。希望いっぱい本学へ入学する新入生とともに、愛教ちゃん、エディがお目見えしました。これからどうぞよろしくお祈りします!



教育課題を地域とともに解決 岡崎市、幸田町、海部地区4市2町1村教育委員会と連携

本学は地域に根ざす教育系大学として、地域の自治体や教育委員会との連携をすすめています。10月2日(火)に海部地区4市2町1村教育委員会と相互連携に関する協定を締結、2月18日(月)には幸田町、3月8日(金)には岡崎市の教育委員会と連携に関する覚書を締結しました。今後は、高度化や現職教員の再教育を目的に現職教員研修などの共同開催事業や、各市町村教育委員会が抱えている教育問題に対応するための個別支援事業などを展開していく予定です。



教育の道を志す学生にエール! 尾木直樹氏が教育実習事後指導の講演会を実施

1月30日(水)、「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。本講演会は教育実習事後指導の一環となる学長企画の講演会で、企画の趣旨に賛同いただいた尾木氏のご厚意により実現したものです。講演では、教員としての体験談や子どもとの向き合い方、教育問題について熱く語る「尾木ママ」節に学生や教職員も



引きこまれ、参加者は和やかな雰囲気の中、熱心に耳を傾けました。また、教員養成課程の学生たちに向けて、教師だからできること、教師だからすべきこと、教師への期待など、ユーモアを交えてお話しいただき、参加した学生からは、「子どもたちの成長に寄り添うことの素晴らしさを再び見直すことができた」「教師になりたい気持ちが一層強くなった」など、感銘を受けたとの感想が寄せられました。

コロコロ転がる木のおもちゃ 樋口一成教授の木のおもちゃが“あいあい”に登場

地元産材を使ってリニューアルオープンした豊田市のとよた子育て総合支援センター“あいあい”。本学の幼児教育講座 樋口一成教授がこの仕事に携わると同時に、樋口教授デザインの木のおもちゃが設置されました。豊田森林組合と連携して「木のおもちゃ」を制作し設置されたほか、樋口教授提案の柱周りに木球が転がる仕掛けが作られました。また、同センターからの依頼を受け、本学卒業生の加藤克俊さん(豊橋創造大学短期大学部 講師)、鈴木安由美さん(愛知みずほ大学短期大学部 助教)と協力して、「よちよちゾーン」には身体を使って遊ぶおもちゃを、「わんぱくゾーン」には頭を使って遊ぶおもちゃを新たに制作して納品しました。樋口教授は「こうしてかかわれたことはうれしくありがたいことです。デザインしたおもちゃを一人でも多くの子どもたちに触れてもらって遊んでほしいと思います」と述べています。



樋口教授のおもちゃが設置された“あいあい”の「よちよちゾーン」「わんぱくゾーン」

本学の社会貢献活動をPR 文部科学省エントランスで共同企画展示を実施

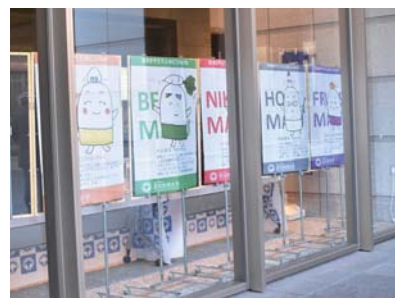
1月4日(金)～2月8日(金)に、文部科学省ミュージアム「文部科学省エントランス」(文部科学省新庁舎2階)にて、文部科学省との共同企画展示を実施しました。

今回、本学からは「現代的教育課題に取り組む愛教大の社会貢献活動」をテーマに、次の3つの取り組みを、パネル、実物展示、映像上映を用いて紹介しました。

- ①外国人児童生徒等への支援
- ②食物アレルギーへの対応プログラム
- ③カンボジアでのしょくまるファイブ®を使った食育

多くの人が行き交う文部科学省のエントランスで、足を止め、本学の展示に見入る姿が見受けられました。

また、2月6日(水)には展示関連イベントとして情報ひろばのラウンジにて、「医教連携による『食物アレルギー緊急対応ワークショップ』～エピペン®注射器シミュレータと児童マネキン人形を用いて～」を実施しました。本学養護教育講座の岡本陽准教授と藤田医科大学の石原慎教授から食物アレルギーと学校における対応体制について分かりやすい講義が行われました。また、本物の針の出るエピペン®注射器シミュレータと子どもの肌の弾力を持つ児童マネキン人形を用いて、実際のアレルギー対応の実技を行いました。参加者からは「とても勉強になった」「期待以上だった」という感想が聞かれ、有意義なワークショップとなりました。



シミュレータでの実技研修

美術分野で続々と快挙 彫刻、デザインで本学学生が受賞!

公募第24回みよし美術展で、町野紗恭(まちのさきょう)さん(中等教育教員養成課程 美術専攻)が、彫刻の作品「還る(かえる)」で奨励賞を受賞しました。また、美術専攻の黒田雅大(くろだまさひろ)さんが第71回瀬戸市美術展の彫刻部門、および第70回碧南市文化祭総合美術展の彫塑工芸部門に作品「幹(みき)」「同盟(どうめい)」をそれぞれ出品し、いずれも奨励賞を受賞しました。さらに、平成31年春にオープン予定の知立駅北地区再開発ビル「エキタス知立」のロゴマークの募集が行われ、造形文化コースの大和田恭平(おおわだきょうへい)さん、佐野花梨(さのかりん)さんが優秀賞を受賞しました。おめでとうございます!



佐野花梨さん 大和田恭平さん



町野紗恭さん



黒田雅大さん

大学キャンパスで収穫した梅を使用 愛教大オリジナル梅酒「愛教大 梅」発売!

大学キャンパス内に自生している梅を使った本学のオリジナル梅酒「愛教大 梅」が2月15日(金)に発売されることとなりました。本学の梅酒が発売されるのは、2017年に続いて2回目となります。前回分1,400本が完売したことから、第二弾の製造をすすめていました。今回も、梅の収穫、選別を大学職員が実施。県内の酒造会社である相生ユニビオ株式会社の協力を得て、梅酒が完成しました。ラベルデザインも職員が担当。価格1,680円(税抜)。今回も1,400本限定です!

甘さ控えめでキリッとした味が特徴の「愛教大 梅」は、酒のすぎた全店、および愛知教育大学生協で販売されます。オリジナル麦焼酎「愛教大 麦」も販売中です。



蔵書の成り立ちを知る手がかりをデジタル公開 附属図書館の蔵書印が「蔵書印データベース」に掲載

本学附属図書館所蔵資料に押印されている蔵書印が国文学研究資料館の「蔵書印データベース」に掲載されました。蔵書印とは所蔵図書に押印された印章のことで、複数の蔵書印がある図書からは、その図書の来歴が分かることとなります。今回、登録された蔵書印は、本学の今井正之助名誉教授(国語教育講座)による蔵書印研究の成果である「蔵書印覚書」に掲載されているもの。附属図書館に調査に来た学外の研究者から「愛教大の蔵書印には大変面白いものが多い」と掲載を勧められたことが、今回のきっかけとなりました。附属図書館には、尾張藩の藩校である明倫堂の旧蔵本をはじめとする貴重な蔵書が伝えられており、研究への寄与が期待されます。

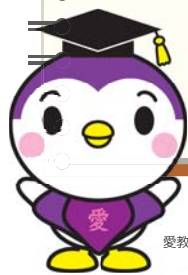


キャンパスめぐり

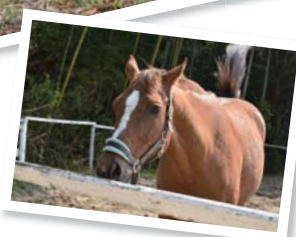
本学のキャンパスがある井ヶ谷地区は愛知県刈谷市北部の緑豊かな高台に位置しています。

春から夏にかけては、ヤエザクラ、ソメイヨシノ、サツキツツジなど色鮮やかな花が咲き、キャンパスを華やかに装います。

キャンパスの隣にある洲原公園は、刈谷市の桜の名所で毎年多くの見物客で賑わいます。



愛教ちゃん



今後のイベント予定

5月11日(土)・12日(日)

スポーツ祭

5月18日(土)・19日(日)

大学祭

5月26日(日)

子どもまつり

7月27日(土)・28日(日)

オープンキャンパス

11月10日(日)

70周年記念事業
ホームカミングデー

愛知教育大学未来基金への ご寄附のお願い

愛知教育大学未来基金
<http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>

愛知教育大学は、子どもたちの未来を拓く人を育てる「教育の総合大学」として多くの学生を迎え、送り出してきました。未来へ羽ばたく多くの学生を支援するため、皆様からのご寄附・ご支援をお願いいたします。

愛知教育大学未来基金の種類

- ・「AUE修学支援基金」経済的な理由で修学に困難がある本学学生を支援いただくための基金
- ・「教育研究基金」学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く本学学生を支援いただくための基金
- ・「創立70周年記念事業基金」2019年に実施する70周年記念事業をご支援いただくための基金

なお、本学への寄附に対しましては、所得税法、法人税法による税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。



愛知教育大学広報誌「あえる AUE Letter」vol.1 (2019 Spring) 令和元年5月発行



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 広報・地域連携課 広報・渉外係
E-mail/kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
<http://www.aichi-edu.ac.jp>

